

# 「正しく捨てる」だけなのに…

## 祭りの後のゴミ問題 改善みせるも依然散乱



耕人塾の中高生が自作のゴミ箱などを 持って会場を往復した

第94回石巻川開き祭りが今年も盛況のうちに幕を閉じた。川開きと言えば、鼓笛隊や七夕飾り、花火などさまざまな象徴的風景があるが、悲しいことに祭り後に散乱したゴミもまた恒例の景色と化している。それでも近年は実行委や行政、民間が各々に収集や清掃活動を展開。ゴミ問題の解決へ、その輪が広がりを見せているのも事実だ。今年も祭りの翌日、当たり前のようについに片付いていた通り。だがその陰には子どもから大人まで、多くの人々の苦勞がある。(近江勝)

### 協力の輪に広がりも

かき氷の容器、ベツトボトル、空き缶、串たばこの吸い殻、祭りの後にはありとあらゆるゴミがいたる所に散乱する。皆が夏の思い出を刻んだ川開き祭り。だが、残ったゴミもまた目を背けてはいけぬもう一つの姿である。おとこの祭りで実の民間団体が集積した



ゴミの回収へ収集車を 手配した。 さらに今年も、これ

植え込みなど人目につきにくい箇所には今年もゴミが目立った。 地方の中高



暗くなっても収集場所が分かるように 電飾でアピール

ので、ゴミのイメージはなかつた。活動の間にもボイ捨てする人を見て、なくすことの難しさも感じたことや、がいくとも現実に目をの当たりにした。

### アイデアと 呼び掛けで

祭りの間、ゴミが多発するのは夜間。暗くなると人の目が届きにくくなると同時に、ゴミの集積所も探すのが困難になる。そこでアイトピアのエコステーションでは目立つように電飾を取り付けてアピール。いしのみまき環境ネットの川村久美さんは「ゴミは持ち帰りました」と言うのは簡単だが、現実はそのほかに、やはり置くべきところには集積所がなくてはいけない。大切なのは正しくゴミを捨てることとて説く。

### きれいなまちを 当たり前前に

石巻の夏を代表する川開き祭り。市民に親しまれた祭りをきれいなお祭りとするための仕組み作りや輪は徐々に広がっている。だが、根本的な解決はやはり来場者のモラル以外にない。ゴミにまみれた景色が、当たり前前になるのではなく、一部の人が拾い集めるのが当たり前になるのでもない。求められているのは、ただ一つ「ゴミ箱に正しく捨てる」という、当たり前前である。

まで単独で活動してきた団体が相互に連携した取り組みも見えた。市役所北側に毎年、ゴミの分別収集所「エコステーション」を設置する市環境保全リーダーの会と、石巻市で環境美化活動に関わるNPO法人いしのみまき環境ネット、市生活環境部廃棄物対策課に加え、石巻地方の中高生が人間力を磨く「耕人塾」の子どもたちもスクラムを組んで、「川開き祭り」を組織。これにより初めてエコステーションを主力所に増やし、祭りの中心部であるアイトピア通りにも設けた。さらに、耕人塾の塾生は「ゴミ袋やほうき、手作りの背負えるゴミ箱で会場を往復し、ボイ捨て禁止を呼び掛けた。青葉中3年生の千葉こはるさん(14)は「活動を始めるまで川開きは単純に楽しむも